

2022.8.21

ご報告：8/20 第 36 回働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

お盆が過ぎて、不順な天候と蒸し暑さが続く 8/20、第 36 回働学研が開催されました。

8/20（土）第 36 回働学研は、2 部編成で 6 本の発表がありました。

第 1 部 生産力・技能教育・高齢者教育への視座（司会：太田）

第 2 部 偏見・差別・放置から社会的支援・連帯への道（司会：濱）

思いの詰まったご報告、そして白熱した議論が交わされ、猛暑もたじたじといった様相でした。

ご参加いただきました下記 28 名には、心よりお礼申し上げます。

（敬称略：伊藤、井本、太田、小野、片山、聴涛、木林、熊坂、後藤、小林、小宮、櫻井、佐藤、澤、程、冨澤、中谷、野間口、波多野、濱、平松、藤井、堀、三輪、安嶋、安林、横田、十名）

8/20 第 36 回働学研プログラム

（司会：太田・濱・十名、画面：澤 & 発表・議論各 15 分：計 30 分/本）

第 1 部 生産力・技能教育・高齢者教育への視座（司会：太田）

平松民平：「書評 聴涛弘[2022]『（論争）地球限界時代とマルクス「生産力」概念』」
かもがわ出版

片山勝己：「欧米における技能教育の特徴と歴史の変遷 ―日本との比較視点」

冨澤公子：「高齢者におけるプログラミング教育の現状と展望」

第 2 部 偏見・差別・放置から社会的支援・連帯への道（司会：濱）

伊藤泰子：「「聞こえない人」から「手話者」への発達と社会的支援課題

―社会的偏見と差別を超えて」

程 遠紅：博論の全体像（目次・要旨）「中国における都市生活ごみの現況と課題

―法治・管理・教育の三位一体による持続可能な循環型地域づくり」

小林伸孝：「書評 藤井編『社会的連帯経済：地域でのつながりつくり直す』彩流社」

なお、7 月末に出版されたばかりの聴涛弘著書の書評会が、月例会の最初に行われました。すばらしい書評を急ぎよまとめ提示していただきました平松さんに、お礼申し上げます。

また、濱真理さんのライフワーク著書（『『市民と行政の協働：ごみ紛争から考える地域創造への視座』社会評論社』）が、8 月 25 日に出来上がるとのこと。献本を申し込まれた方には、1 週間後に届くことでしょう。余部はあと少し！のご様子。ご希望の方は、濱さんまでお知らせください。

各位の発表と議論については、<付記1 発表&議論のポイント>をご覧ください。

なお、次回の9/11第37回働学研などについては、<付記 9月働学研のお知らせとお願い>をご覧ください、

どうかよろしく申し上げます。くれぐれもお大事に。

<付記1 発表&議論のポイント>

平松民平さんの発表は、7月末に出版された聴涛本の書評で、聴涛 Vs.友寄論争に焦点をあてたもの。生産力とは、「生産力の発展」とは何か。歴史貫通的か、生産関係とどう関わるか等々。それに対し、「生産」とは何かが問われるべき。「生産力の発展」ではなく「劣化」ではないか。タイトル「地球限界時代」の出典、資源と労働との関係、等を議論。

片山勝己さんの発表は、欧米における技能教育の特徴と歴史的変遷を、企業内学校の視点から考察。日本で企業内に特化した原因をめぐり、日本人の特性や日本文化に注目する。これに対し、公教育とは、「公」とは何か。企業内学校は公教育とどう関わるか、文科省による「公」占有。大企業における人材囲い込み、技能教育の社会的軽視、文献等議論。

冨澤公子さんの発表は、高齢者とくにアクティブシニアがプログラミング教育を通して社会に貢献する人材へ変身する様に注目。高齢者にみる負のイメージ、社会的孤立から介護への悪循環。そこから好循環にどう転じるか。高齢者像の転換、社会参加、生き甲斐・居場所の発見、若者との交流、子どもへの教育支援、シニアによるシニア支援、等、議論。

伊藤泰子さんの発表は、「聞こえない人」が「障害者」から「手話を母国語にする手話人」へ発達する可能性と社会的支援の重要性に注目。カナダにおける手話教育の充実、日本における社会的偏見と公教育貧困。その対照性に警鐘を鳴らす。手話教育を妨げているものは何か。文科省の統合教育による聾・盲学校の閉鎖、個性軽視は歴史に逆行、等議論。

程 遠紅さんの発表は、中国における都市生活ごみ問題を、法体系・行政・教育の三位一体の包括的視点さらに数千年の歴史的視点から、理論的・政策的に分析し体系的に考察。博士論文（20万字以上）として9月申請予定。その要旨を披露。修士2年、博士6年の集大成。「現場調査、古代から現代まで三位一体的に立体化・体系化した力作」（冨澤）等。

小林伸孝さんの発表は、『社会的連帯経済』の書評を通して、分散型企业組合の理論と政策を深めていく手がかりを探求したもの。社会的連帯経済と分散型企业組合の近接性・関係性をめぐり質疑応答。具体的に何が近接性なのか、関係性とは何か。自営業者の自負、内面にみる労働者と経営者の協同、地域的課題・ニーズに応える住民との協同、等議論。

9/11 働学研（研究大会）のお知らせは、次ページ（付記2）をご覧ください。

<付記2 9/11 第37回働学研のお知らせとお願い>

なお、9/11（日）の第37回働学研は、文化政策・まちづくり大学校&国際文化政策研究教育学会の研究大会（9/10-11）の一環として開催されます。

日曜の開催となりますが、特例で今回に限りますので、お許しください。

横田幸子著に続き、濱真理著の本も8月末までに献本先に届く見込みです。熊坂敏彦著の出版も近く予定されています。社会人研究者によるライフワーク出版が相次ぎ、（本つくり）研究会としての側面でも実を成しつつあります。

汗と涙の結晶、ライフワーク出版のもつ意義は何か。学びあい育ちあう研究者として、社会人、大学人が一緒になって考え、深める機会に出来ればと思います。

9月11日 午後 13:30~17:00

ライフワーク出版記念書評会&シンポジウム（司会：太田、十名、画面：澤）

第1部 ライフワーク出版3冊の書評&リプライ（13:30~15:30 司会：太田）

横田幸子[2022.7]『人類進化の傷跡とジェンダーバイアス

— 家族の歴史的変容と未来への視座』社会評論社 書評：波多野進

濱 真理[2022.8]『市民と行政の協働

— ごみ紛争から考える地域創造への視座』社会評論社 書評：藤井敏夫

熊坂敏彦[2022]『循環型地場産業の創造

— 持続可能な地域・産業づくりに向けて』社会評論社 書評：太田信義

（7-9月に、3冊の単著書が数十年の思いと研鑽を込めて、相次ぎ出版される。そこに光をあてたい。[各本の書評者・コメンテーターを募集中](#)）

第2部 ライフワーク出版記念シンポジウム（15:30~17:00 司会：十名）

十名直喜：「社会人のライフワーク出版同期化の歴史的意義と協働の未来に向けて」

横田幸子：「ライフワーク出版に至る半世紀の歩み 一守・破・離の視点から」

その他

（ライフワーク出版の著者、書評者、コメンテーターそして参加者が一堂に会し、思いと体験を語り合う。珠玉のノウハウや教訓を浮かび上がらせたい。[参画者を募集中](#)）

ご参加の方は、十名（tona@iris.eonet.ne.jp）までお知らせください。

ご参加のお知らせ、お待ちしております。